

パネルディスカッション
「小児の放射線治療とプレパレーション」
Radiation therapy and psychological preparation for
the pediatric cancer patients

越智 悠介

Yusuke OCHI

広島大学病院診療支援部放射線治療部門

Radiation Therapy Section, Department of Clinical Support, Hiroshima University

小児がん拠点病院では各職種が専門性を活かして協力し、全人的な小児がん医療および支援を提供することが求められる¹⁾。小児に対する治療を高い質で提供するには子どもが主体的に治療に臨む必要があり、それには子どもの年齢や発達段階に応じて治療環境を整備し安心感を与える事が重要である。当院では、小児放射線治療におけるチーム医療の重要性を鑑みて、2013年から多職種が連携した小児放射線治療に取り組み、現在までに医師や診療放射線技師、治療科看護師、小児科病棟看護師と連携した小児放射線治療支援プログラムを構築してきた。この小児放射線治療支援プログラムの中では、治療を受ける子どもやその親が安心して放射線治療に臨めるように一般的な放射線治療プロセスの中にプレパレーションとして治療計画 CT 室や放射線治療室の見学ツアーを導入し実施している。見学ツアーは主に診療放射線技師と治療科看護師、チャイルドライフ・スペシャリストと連携しながら実施している。今回の講演では、見学ツアーの内容を中心に診療放射線技師として2013年から取り組んできた内容と、これまでの経験から学んだことについて報告させていただいた。そして、放射線治療を受ける子どもやその親が安心して治療を受けるためには多職種との連携と他職種の専門性の高い知識や技術、経験などが必要であることを再認識できた。また、多職種と円滑に連携していくためには情報共有が重要であるため、部署や職種を超えた情報共有の方法が今後の課題であることをパネリスト間で共有させていただいた。今後もさまざまな課題に対しては多職種で取り組み、小児がん患者に優しい放射線治療を提供していきたいと考える。

引用文献

- 1) 厚生労働省健康局長通知. 小児がん拠点病院等の整備について. <https://www.mhlw.go.jp/content/000347080.pdf>(検索日: 2020年11月25日)